

横浜港新本牧ふ頭地区公有水面埋立事業

準備書説明会の開催状況、質疑、意見の概要及び事業者の見解

平成 30 年 7 月 30 日

国土交通省関東地方整備局
横 浜 市

1. 準備書説明会の開催状況、質疑、意見の概要及び事業者の見解

1-1. 準備書説明会の開催状況

準備書説明会は、表 1に示す日時で計3回開催し、環境影響評価準備書の概要を参加者に説明しました。

表 1 準備書説明会の開催結果

回	開催日時	会 場	参加 人数
第 1 回	平成 30 年 7 月 15 日(日) 14:00～15:00	横浜市立大鳥中学校 (神奈川県横浜市中区本牧原 22-1)	31 名
第 2 回	平成 30 年 7 月 18 日(水) 14:00～15:00	横浜市新山下地域ケアプラザ (神奈川県横浜市中区新山下 3-15-5)	42 名
第 3 回	平成 30 年 7 月 18 日(水) 19:00～20:00		14 名
合 計			87 名

1-2. 準備書説明会における質疑、意見の概要及び事業者の見解

各開催日の意見の概要と事業者の見解は、表 2～表 4に示すとおりです。

表 2(1) 準備書説明会（第1回：大鳥中学校）における意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における意見の概要	事業者の見解
事業計画	140ha の埋立地の外周は何 km か。	護岸 B が約 970m、護岸 F が約 2,110m、岸壁側が約 1,550m、護岸 A が約 350m であり、足し合わせると外周約 5km となります。
	また、沖合何 km となるか。	シンボルタワーを起点として、沖合まで約 1.8km です。
	本牧漁協から埋立地先端部までの距離はどれくらいか。	約 2km です。
	事業期間 20 年の予算はどうなっているか。国・県・市なのか。予算の継続はどのように考えているか。	予算については、今後の予算要求を行う中で検討してまいります。また、継続的に事業を進めていきたいと考えています。
	山砂はどこから、どのくらいの量を計画しているのか。	具体的な場所についてはまだ特定していません。工事を発注する段階で検討してまいります。
	20m近い水深が必要となる根拠はあるか。また、コンテナ船の輸送規模としてはどれくらいを想定しているか。	国際基幹航路の我が国への寄港の維持・拡大を図るため、コンテナ船の大型化に対応した大水深・高規格コンテナターミナルを整備する必要があります。対象船舶としては全長 400m、必要水深 18m の 16,000TEU 級のコンテナ船を想定しています。 また、3 大アライアンスが運用する上での利便性を考慮し、南本牧、新本牧、本牧の 3 つのふ頭で対応できるようにしたいと考えています。

準備書説明会での質疑・回答のうち、準備書の内容に関連があるものを掲載しました。

表 2(2) 準備書説明会（第1回：大鳥中学校）における意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における意見の概要	事業者の見解
事業計画	水深 18m 級のコンテナ船が扱えないと国際的に戦えないのは想像がつかない。20 年間の予算を使って、造らないといけいないのか。事業の必要性を説明して欲しい。	事業の目的は、国際コンテナ戦略港湾として大型コンテナ船を受け入れることができる港を造ることです。 大型コンテナ船を受け入れることができない場合、この先、中国や韓国などの海外港にコンテナ船（国際基幹航路）が流れていくと考えています。このため、新本牧ふ頭に水深 18m の大水深・高規格コンテナターミナルを整備し、世界的に大型化しているコンテナ船を日本へ取り入れていきたいと考えています。
	20 年後に完成した時、交通量が増加すると予想される。現時点でどの程度の増加を見込んでいるのか。	今回の環境影響評価は埋立て段階までの影響を対象としています。交通量を含めた供用後の予測については、今後の公有水面の埋立免許手続きの段階において検討することとしています。 なお、臨港幹線道路を整備することで地域住民の交通に配慮いたします。
	臨港幹線道路のルート、コンテナ車両の輸送ルートを示して欲しい。また、コンテナ車両が既設の道路の交通量に与える影響はどの程度か。	コンテナ輸送車両が通行する臨港幹線道路を整備し、地域の方が利用する生活道路と分離するとともに、海づり施設等の利用者と錯綜しないように道路計画を検討してまいります。 臨港幹線道路については、港湾計画に位置付けていますが、より具体的な計画や交通量については、今後、詳細に検討してまいります。 また、コンテナ輸送車両が既設の道路の交通量に与える影響については、今後の公有水面の埋立免許手続きの段階において検討することとしています。
	本牧「お馬流」の行事を今後も滞りなく進めるにあたり、この工事と共存していくか、共存できないのか教えて欲しい。これらの情報開示を関係者に対して、行政から説明会を開いて欲しい。	別途、工事に関する説明会などの場で説明させていただきます。

大気 騒音 振動	供用後の排気ガス、振動について地域に与える影響はどのくらいと想定されているのか。この検討を行わないと不十分ではないか。	今回の環境影響評価は埋立て段階までの影響を対象としています。供用後の予測については、今後の公有水面の埋立免許手続きの段階において検討することとしています。
----------------	---	---

準備書説明会での質疑・回答のうち、準備書の内容に関連があるものを掲載しました。

表 2(3) 準備書説明会（第1回：大鳥中学校）における意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における意見の概要	事業者の見解
動物 植物 生態系	この事業で防波堤が作られると、本牧海づり施設の海水交換が悪くなり、滞留域ができて、生態系は壊れないか。魚が釣れなくなるのではないか。	準備書において、埋立時の存在による潮流の予測結果から、著しい変化はないと考えており、生態系への影響は少ないと予測しています。
	環境保全措置の生物共生型護岸は、我々一般市民に開放してもらえるのか。また、海の中に住む生物により水質をきれいにするのか。水質改善するために、どのような生物を想定しているのか教えて欲しい。	シンボルタワー緑地と一体となった親水性のある水際線緑地は、海釣りの場としての利用など、広く市民に開放します。 生物共生型護岸のスリットには、ワカメ等の海藻類（岩礁性）、ムラサキイガイ等の付着生物の生息場所となることを想定しています。 具体的には、専門家等と相談しながら進めていきたいと考えています。
	レッドリストに載っている海生動物 28 種は、全て名前は分かっているのか。データはもらえるか。	準備書に全て記載しています。ホームページにおいても PDF 形式で準備書を確認できます。
	ニホンウナギが重要な種に入っていないが確認しているか。レッドリストに載っている生物種と実際の結果が異なる可能性がある。	事業者実施調査において、事業実施区域で確認された重要な種（魚類）は、ホシザメ、ガンギエイ、コモチジャコ等です。ニホンウナギは事業者実施調査では確認されていませんが、既存の文献では淡水域において確認されています。

準備書説明会での質疑・回答のうち、準備書の内容に関連があるものを掲載しました。

表 3(1) 準備書説明会（第2回：新山下地域ケアプラザ）における
意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における意見の概要	事業者の見解
水質	新本牧ふ頭（既存地と埋立地の間）には、水路は必要ないのか。南本牧の水路は利便性が高いため、水路を活用している船は多い。本埋立地ができると、沖から回り込んで入らないといけないため、現状の利便性が無くなる。	今回は水路を設けない計画としています。水路有り・無しの検討を行い、水路を設けた場合、横浜航路上で小型船と本船が見合い関係になり、航行船舶の安全性に支障をきたすことが分かりました。それを鑑みて、今回は水路を設けないこととしました。 航行船舶の安全性については、引き続き検討していきたいと考えています。多少ご不便をかけることになるとは思いますが、ご理解を頂けますようお願いいたします。
	埋立地が出来た場合とない場合の上げ潮・下げ潮の潮流ベクトルの比較について、web 上の準備書の PDF をダウンロードして見た時に、説明用 PPT 資料に掲載している図ともう 1 つ違うパターンの図があったと思うが、こちらの方が分かりやすく、はっきりと潮による変化が大きく出ている。	潮流ベクトル図については、鶴見川下流域、大岡川沿い、野島海岸といった重要な地形及び地質に影響があるかどうかという観点で、表層（2.0～4.0m層）の結果を載せています。
	潮の変化が、工事区域周辺はそんなにならないが、工事区域内（西側）は潮流変化が起きてしまうと思う。その潮流変化が起きる場所に関して、海づくり施設があったり、釣り船がついていたりしている。今回挙げている魚種（スズキやカサゴ等）は環境変化に強く、これらの種には影響は無いと思うが、潮流の変化に関してはどうかと思う。	本牧海づくり施設側の潮流がやや遅くなりますが、開口部の方は防波堤と南本牧の距離が800m程度あり、海水交換は行われると考えており、その影響については環境監視調査により把握してまいります。環境保全措置として、例えば生物共生型護岸を適用するなどして影響を低減していきたいと考えています。

準備書説明会での質疑・回答のうち、準備書の内容に関連があるものを掲載しました。

表 3(2) 準備書説明会（第2回：新山下地域ケアプラザ）における
意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における意見の概要	事業者の見解
水質	波の消波（消波ブロック）の効果について書かれていなかった。 自然発生が波が消波ブロックにあたって三角波になったりするので、それについても加味して欲しい。	消波構造の効果については、今後の設計において検討します。
人と自然との触れ合いの活動の場	海の形が変わるので、回遊魚が来なくなり、釣れる魚が大幅に減るのではないかと。また、外側には良い施設を造られるようであるが、現在の本牧海づり施設の利用者は減るのではないかと。そのあたりの措置を検討して欲しい。	本牧海づり施設は貴重な財産であると考えています。環境保全措置として、例えば生物共生型護岸を適用するなどして影響を低減するとともに、環境監視調査を実施することとしています。

準備書説明会での質疑・回答のうち、準備書の内容に関連があるものを掲載しました。

表 4 準備書説明会（第 3 回：新山下地域ケアプラザ）における
意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における意見の概要	事業者の見解
人と自然との 触れ合い の活動の場	シンボルタワーの公園について、 20 年間工事をするものであるが、 引き続き利用できるのか。	工事中においても、引き続き利用で きるように施行方法を配慮してま いります。
	気になっているのは、シンボルタ ワーに向かう道が工事車両の通行 の道になっている。あそこは遊歩 道になっていて、船を見ながら通 ると気持ちの良いところである。 そこを工事用車両が通ると不愉快 である。将来、新本牧ふ頭が出来 た時に、コンテナを運ぶ車が横切 ると遊歩道とぶつかってしまう。 その辺を聞きたい。	憩いの場所として使われている所 に支障が出ないように、工事車両の 出入り方法など、施工計画を工夫し ていきます。工事が本格的に始まる 時には、周辺の方には工事説明を行 う予定です。 また、供用後については、シンボル タワー緑地に向かう動線とコンテ ナ輸送車両の動線が分離できるよ うに検討していきます。

準備書説明会での質疑・回答のうち、準備書の内容に関連があるものを掲載しました。